

## 開学10周年によせて



財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団  
会長 秋山喜久

このたび、奈良先端科学技術大学院大学が、創立10周年を迎えられましたことを心からお祝申し上げます。

奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）は、この10年間、関西における頭脳的役割を果たす、けいはんな都市の中核施設として、先端技術の研究と人材育成、また産学連携の推進に積極的に取り組んでこられ、国内外から高い評価を得てこられました。これもひとえに鳥居学長をはじめとする関係者皆様のご努力の賜物であり、心より敬意を表します。

NAISTが開学された平成3年頃と申しますと、冷戦の終結による経済のグローバル化が進展し、メガコンペティションが激しさを増しつつあった時期でした。世界各国は、産業における国際競争力強化のため、情報通信技術、バイオテクノロジーなど、競って科学技術の振興を国家戦略として位置づけ、積極的な政策展開を図っていました。

わが国においても、これら先端科学技術分野に焦点を当てた高度な基礎研究の推進と、この分野を支える人材の養成が喫緊の課題となり、学部を持たない新構想大学の設置が文部省により決定されました。

このような背景から誕生したNAISTは、今やわが国が21世紀に「科学技術創造立国」を実現する上で最も重点をおいて取り組むべき情報科学、バイオサイエンス、そして物質創成科学という3分野で、すでに1,981名の修士、博士を世に送り出されました。またこの間、世界で初めて原子の配列構造の立体写真を直接撮影できる「立体原子顕微鏡」いわゆる“ダイヤモンドライザー”を開発し、また政府のミレニアム・プロジェクトのひとつである「バイオルネッサンス2000」のゲノム生物学分野をNAISTが総括して進められるなど、見事な研究成果を残されました。加えて本年からは、新たに3つの研究科の複合領域であり、ポストゲノムとして、産業界が注目している「情報生命科学」分野の教育及び研究を開始されるなど、まさにわが国の科学技術研究の最先端を担うまでになりました。

言うまでもなく、現下の関西経済の情勢は、誠に厳しく危機的状況が続いております。この危機を乗り越え、関西経済を持続的成長軌道にのせるために、今関西では、「関西IT戦略会議」、「関西バイオ推進会議」、「関西ナノテクノロジー推進会議」を産学一体となって推進し、まさに関西の強み、ポテンシャルを活かした新産業創出策をオール関西で取り組んでおります。これらプロジェクトは、NAISTが有する3つの独創的研究科の研究成果が最大限に活かされるものであり、NAISTには、関西の総力を結集する“かなめ”の役割を担っていただきたいと思っております。

当財団といたしましても、「科学技術創造立国 日本」の実現の一翼を担うNAISTのさらなる飛躍のために、引続き支援をさせていただき所存でございます。

関係者の皆様におかれましても、引続きNAISTへの強力なご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。お祝の言葉とさせていただきます。